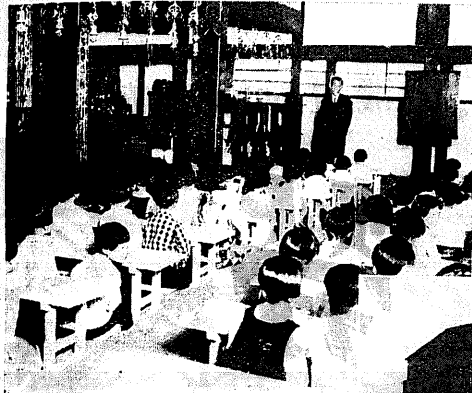


# フラグ働勞

← 關西地方の未育育  
寺小屋を演出す  
大嵐風に、突如として  
校舎の倒壊を幾多の  
犠牲に併したことは、  
深なきを得ぬ事であ  
つたが、日ならずして  
復興の足どりは唯々々  
踏み出された。これは  
大開寺を借受けて授業  
を開始した下味原小学  
校の況ぐましき假教室



↓ 共同販賣反對  
大會の光景  
總同盟本部前廣  
場に於ける國産電  
球産業擁護同盟の  
活動—商工省の  
輸出電球共同販賣  
實施に反對して、  
擁護同盟員(工場  
主及び従業員)は  
十月二日午前九時  
より、總同盟本部  
に旗々集合、約一  
千名は、共販反對



↑ 九州地方に始めて  
完成した労働會館  
福岡縣小倉市に於ける製鋼小倉分  
會館前—九州労働運動にエボク  
を劃した製鋼小倉労働會館の落成祝  
賀式は、九月二十九日祭壇に舉げら  
れた。總工費約一萬六千圓、延坪  
百五十坪の洋風水造建築である。(北頁記事参照)



→ 工場操業を  
實施す  
東京工務部支  
部と東京鐵工大座  
第十一支部では産  
業協力運動の一助  
として工場操業  
を去七月より開始  
してゐるが、前報



二十一日(記事参照)成績は  
良好で、健康の向上、作  
業能率も増進して来た。  
↑ 國日本館第十一支部の  
工場操業、尙青嶺支部は  
團體協力を維持してゐる  
し、第十一支部も青嶺南  
者則前日(記事参照)の點  
より全ての問題を解決し  
てゐる。

## 第廿二回大會を迎ふ

茲に第廿二回大會を迎へることになつた。大會が隔年開催となつたから、前回大會以後二年が過ぎ去つたわけである。この二年間に於て、日本及世界は、非常な勢ひを以て變轉したのであつて、労働組合運動も各種の大問題に遭遇した。先づ、獨逸に於てはナチスの政權が確立し、従来の労働組合は事實上、全く敗退されて、社會上及産業上の地位に非常な變化を來した。英國に於ても、ファシズムの政權と戰つて、労働組合は益々大なる地位を失ふに至つた。米國に於ては、産業復興法が實施されて、労働組合の産業上の地位は著しく高まり、その量的並に質的勢力は益々大を加へつゝある。其他の各國の労働組合運動は、一起一伏或國ではたるものは、或國で失ひ、或國で失つたものは、或國で得て居る状態であるが、これを高所に立つて大觀すると、一定の基準に向つて、平衡化が行はれて居ることを知るのである。即ち、従来の労働組合は、労働階級の階級的團體として、その機能も、労働階級の利益のみを追究するに止まつた。然るに、經濟組織の變質に伴ふ時代の要望は、労働組合の機能に著しく公共性を加ふるに至つたのである。勿論、今日と雖も、労働組合が労働階級の團體であり、主として労働階級の利益増進を目的とする點に變りはないのであるが、その目的を實現する爲には、どう

## 關西風水害罹災者を救へ

關西を襲ふた暴風雨及洪水は、未曾有の慘禍を現出した。その範圍は關西に亘り、農村は愈々その凋落を深め、大阪を中心とする都市、特に海沿に近き工場街は、極微として崩れ當てられなう状態に陥つた。風水害と言ふと、雷火災に比して何となく罹災程度が少といふ印象を一般に與へ、關東大震災と較べて救援の熱意が足りないと、いふ批評、乃至不平が、關西方面から擧つて居る。實際風水害の状態を見る、西大阪一帯は、所によつては震災以上の有様である。それが、工場仲間であるから、多くはプロレタリアで、我々同業の組合員も多数に居住して居るのである。資本家の増加と共に、難苦の増進もあつた。然し、労働者はそのほかに、我々は全力を盡して同志を支援しなければならぬ。既に本部は全國の組合員諸君にこれを訴へて居る。總全救援金を送れ!

斯る公共的労働組合運動は、言ふ迄もなく二の義の理想によつて生れたものでなく、發達途上にある人類の經濟制度の必要から生じたものである。故に、この基準から進み過ぎたものは一と先づ引下げられ、遅れて居るのは引上げられる。世界各國に於ける労働組合運動の形勢は、この觀點から觀察して、始めて正衡を得るのであらう。

然らば、我國に於ける労働組合運動の發展は如何。公共的労働組合の機能を發揮せしむる爲には、その量的及質的勢力を引上げねばならぬ。我國産業の重要部分占むる中小工業は、政府及當業者の努力あるに拘らず、今尙、充分なる統制を得るに至つて居らない。のみならず、従来の單なる統制政策は、眞止の意味からすれば幾多の缺陷があるのであつて、どうしても、こゝに體質にして有力な労働組合の協力を俟たねばならぬのである。又、大産業方面に於ては、勞資の分配極めて不公正であつて國民生活を安定せしむる爲にも國民の購買力を増進する爲にも、強力にして統制ある労働組合の活動に必要とする。

既に我々同盟は労働組合會議と協力して、産業及労働統制に關する建議を行つて、時代の要求に從ひ、労働組合の進むべき道を明かにした。今や、我國労働運動の大勢は、この同盟の方針に合流し、總同盟の善闘は漸く翻ひられつゝある。然し乍ら、これは第一階級を上つたに過ぎず、總論を終つたに止まる。今年以後に於ては、愈々之が具體化の階級に上り、各論の實踐に入らねばならぬ。されば眞の日本労働運動はこれから始まるといふも過言でない。

第廿二回大會は、この意味に於て、誠に重大なる意義を有し、亦存せしめねばならぬのである。こゝに組合員諸君の一層の決意を要求する次第である。

